

2015 年度グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2015 年度に開講した主な科目について述べる。

①必修科目（演習系）：1 年次生対象として「グローバル地域文化導入セミナー」、2 年次生対象として「グローバル地域文化入門セミナー」、3 年次生対象として「グローバル地域文化発展セミナー」を開講した。「グローバル地域文化発展セミナー」は前年度にコースごとに説明会を行い、学生の申請書に基づき選考を行った。1 年次生対象の「グローバル地域文化導入セミナー」、2 年次生対象の「グローバル地域文化入門セミナー」よりもさらに少人数のクラス編成の下で、より学生の主体性を生かした専門性の高い指導を行った。

②必修科目（講義系）：1 年次生対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を、2 年次生対象として「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」を開講した。2 年次生対象の科目は 3 コースそれぞれにクラスを設け、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げると共に、学生の発表を取り入れるなどして学生の積極的な参加を促した。

③選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」を開講し、夏にアメリカ（ロサンゼルス）（9 名）、カナダ（トロント）（4 名）、カナダ（モントリオール）（4 名）、オーストラリア（メルボルン）（2 名）、中国（上海）（2 名）に学生を派遣した。帰国後、学生による研修成果報告発表会を公開で行なった。また、「スタディ・ツアー」を香港で実施し、参加学生（4 名）は担当教員の指導の下で視察および現地の学生との交流を行った。

④選択科目：学部開設から 3 年目に入り、専門性の高い科目を除き、ほとんどの選択科目を開講した。講義科目の内容は、コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる。「フィールドワーク」の授業では、理論や技法を学習した後、受講者は自ら設定したテーマについて実際に調査を行った。

II. FD 活動

以下、行った活動を時系列順に述べる。

4 月に開催した FD 委員会で今年度から従来の 1 年生アンケートに加え、3 年生アンケートをも行うことを決定した。5 月以降、3 年生アンケートの素案を元に推敲を重ね、各質問項目に関係する本学部教員への確認を経て、質問項目を確定した。11 月後半、「グローバル・スタディーズ論」の授業内で 1 年生アンケートと、「グローバル地域文化発展セミナー」の授業内で 3 年生アンケートを実施した。2016 年 2 月に 1 年生、3 年生アンケートの結果を分析し、報告書を作成した。

6 月以降、FD 講演会の講師選定を行った。交渉の結果、椿昇・京都造形芸術大学教授と、村澤真保呂・龍谷大学准教授へ依頼を決定した。11 月 11 日に FD 講演会『<学ぶ-教える>

の未来形：大学でどう学ぶか？大学はどうあるべきか？』を開催。学生の参加を促すべく、グローバル地域文化学会との共同開催の運営方式としたため、参加者数は増加した。

11月7日、父母懇談会を開催し、157名の父母の参加があった。

2016年1月に本学部教員の行う授業のシラバスに関してFDチェックを実施した。

III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年2回、研究機関誌『GR』（論文、翻訳、書評、書誌、各種の批評と紹介、会員の活動報告など）を発行した。また、講演会としては、6月16日に『歴史と責任』の行方——ドイツの戦後補償問題の過去と現在について考える（講師：矢野久・慶應義塾大学経済学部教授）、7月14日には「ヨーロッパ移民問題との出会い」（講師：宮島喬・お茶の水女子大学名誉教授）、12月9日には「自と他の弁証法——グローバルな人文社会科学は必要か？」（講師：羽田正・東京大学東洋文化研究所教授）を主催した。

学部専任教員の研究グループを対象に、図書およびその他の資料購入、複写利用、資料作成費などに充てるべく、「研究会補助」の制度を設けて、研究会活動をサポートした。この制度を活用して2015年度も各種研究活動が活発に行われた。これらの研究活動補助を得た研究会は「活動成果報告・経過報告」を年度末に提出した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。

(URL:<https://kenkyudb.doshisha.ac.jp/>)

IV. 国際交流活動

8月に延世大学校人文芸術大学国語国文学科と本学部との間で学生交換協定を締結した。本協定による交換学生人数は、毎年各大学1名である。各大学の学部・学科で提供されている科目の履修も許可され、その単位は在籍大学での手続きに従い在籍大学への単位交換が可能となる。

学部独自で「海外インターンシップ」、「スタディ・ツアー」、グローバルキャリア説明会、語学検定支援（受験料補助）、IELTS受験対策講座を行っており、学生の留学、語学力向上、国際的ビジネスへの就職支援を実施している。「海外インターンシップ」、「スタディ・ツアー」については、上記I. 教育活動 ③選択必修科目（スタディ・アブロード科目）を参照のこと。更に、グローバルキャリア説明会と語学検定支援などについては、下記VI. 学生支援活動を参照のこと。

海外研究者受け入れ：ハワイ大学マノア校より客員研究員木村あや氏（6月4日～7月28日）、トロント大学より客員研究員 Aaron Emmanuel Peters 氏（9月1日～8月29日）、アーモスト大学より客員研究員 James Hildbrand 氏（9月1日～8月31日）を受け入れた。

V. 社会貢献活動

一般市民向けの本学部教員の活動に以下のものがあった。西陣朝市マルシェの運営の支援および出店参加をした。市民公開の柴田大輔氏写真展・講演会「コロンビア『歴史記憶の家』」を開催した（5月26日）。関西文化学術研究都市8大学連繫市民公開講座2015で「グローバル社会の変化と地球環境問題：東アジアにおける環境協力」の講演を行った（9月18日、講師：Aysun UYAR 本学部准教授）。市民向け公開講演「アメリカの社会と戦争から憲法を考える」を行った（11月21日、講師：和泉真澄 本学部教授）。本学キリスト教文化センターのチャペルアワーで奨励のためのスピーチをした。

大学の枠を越えた本学部教員の活動として、在日ロシア領事館（大阪）における関西地域大学学生ロシア語コンクールに本学学生を送り、本学の参加者たちが受賞した（12月19日）。

小中高生の教育活動に本学部教員が関わったものとして以下のものがあった。高校出張・模擬授業を行った（和歌山県立田辺高校、10月23日 等）。高校生向け「大学入学準備講座」授業を行った（10月24日）。本学部生とともに、京都市の小学校における異文化理解の授業に参加した。高円宮杯全日本中学校英語弁論大会の主席審査委員とニュートンカップ英語スピーチコンテスト主席審査委員を務めた。

さらに、在学生の安居綾香さんが「日本ルワンダ学生会議第12回本会議 京都企画」の活動により平成27年度日本学生支援機構（JASSO）優秀学生顕彰事業「国際交流」分野の大賞を受賞した。また同じく在学生のアザハ・アティカ・ビンティさんの出演した留学生誘致のプロモーション映像『WHY CHOOSE KYOTO?』が公益社団法人映像文化製作者連盟主催の「映文連アワード2015」で優秀企画賞を受賞するなど、本学部の学生たちが積極的に社会貢献・国際貢献を行った。

VI. 学生支援活動

①学習支援:外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の補助を行っている。また、TOEFL ITP®テストに加えて、2015年度はあらたにIELTSの集中対策講座・検定試験の団体受験を実施し、より多くの語学力向上のための機会を提供した。

②キャリア形成支援:「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計6回開催した。

第1回 独立行政法人国際協力機構（JICA）「JICAによる国際協力」（5月29日）

第2回 株式会社 読売旅行「お客様に『夢』を提供.....それが旅行業界です」（6月12日）

第3回 富士紡ホールディングス株式会社「業界概要と求める人材像について」（7月10日）

第4回 株式会社ファーストリテイリング「グローバル人材として活躍するためのヒント」（11月9日）

第5回 株式会社神戸製鋼所「地域研究経験者の就活・仕事体験談」(12月14日)

第6回 日本ペイントホールディングス株式会社「日本の信頼をもつくる『ものづくり』
の仕事」(12月21日)

以上